

旧広島陸軍被服支廠に係る懇談会等の開催状況について

1 要旨・目的

旧広島陸軍被服支廠の活用について、令和4年度末までに、実現可能性のあるアイデアを「活用の方向性」として、複数案取りまとめるため、「第2回旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会」（以下「第2回懇談会」という。）及び「第1回旧広島陸軍被服支廠の活用を考えるワークショップ」（以下「第1回ワークショップ」という。）を開催したので、その内容について報告する。

併せて、実施設計に着手する安全対策工事と建築物の価値調査について、意見を聴取するため、「第1回旧広島陸軍被服支廠 安全対策・価値調査等検討会議」（以下「第1回検討会議」という。）を開催したので、その内容について報告する。

2 現状・背景

建物の安全対策を早急に進める必要があることから、耐震性を確保しつつ、内部見学などの利用が可能となる安全対策と最小限の利活用を同時に実現するパターンを基に、建物3棟の安全対策の実施設計業務に着手した。

併せて、重要文化財の指定に向けて、建築物の価値調査に着手した。

また、重要文化財の指定を見据え、指定後に必要となる建物の管理・活用の方向性等を定める保存活用計画の検討を進めるため、有識者等で構成する懇談会を設置・開催し、活用の方向性の取りまとめに着手した。

3 概要

(1) 活用の方向性の取りまとめについて

ア 第2回懇談会の開催について（WEB開催）

(ア) 実施主体

県

(イ) 日時

令和4年1月26日（水）10時00分～

(ウ) 場所

自治総合研修センター第1研修室（広島市中区胡町4-21 朝日生命広島胡町ビル7階）

(エ) 実施内容

a 出席委員

コア委員全8名，分野別委員1名出席

b 議題

(a) 被服支廠に関する情報の共有

3名の委員からの情報提供により、被服支廠の歴史や価値などの共有を図った。

内 容	所属・氏名
(1) 広島県の歴史と被服支廠について ○ 兵站基地であった軍都広島県の歴史 ○ 被服支廠の設置経緯や業務内容など	広島市郷土資料館 主任学芸員 前野 やよい
(2) 被服支廠の価値について ○ 被服支廠をとらえるポイント ・ 圧倒的な大きさ ・ 広島県の近代史を体現する存在 ・ 煉瓦造とRC造を併用した建築物 ・ 活用可能な被爆遺構 ○ 活用を考えるポイント ・ 活用しながら保存するための運営費を確保するなど、持続可能性の必要性 ・ 活用のアイデア（宿泊施設、美術館など）	アーキワーク広島代表 高田 真
(3) 大規模建造物の活用（事例）について ○ 欧州での軍事施設や刑務所などの活用事例	近畿大学 社会環境工学科 教授 岡田 昌彰

※今回の委員のプレゼンの模様は、2月18日頃に県HPで動画の配信を行う予定

(b) 意見交換

被服支廠の歴史や価値を踏まえた活用を進めるためのポイントなどについて、意見交換を行い、主な意見は次のとおりであった。

- ① 活用を検討していく上では、被服支廠だけでなく、軍都広島としての歴史、周辺に残る被服支廠に関連する遺構の痕跡や周辺住民の被服支廠に対する思いや考えなどを知ることが重要である。
- ② 被服支廠に対し、多くの方々が愛着を感じ、誇りを持つことが活用の検討やその後の運営に当たっては、重要である。
- ③ 運営費を確保するなど、持続可能性が重要である。

c 次回開催予定

日程：令和4年3月22日（火）

内容：活用の方向性のとりまとめに向けた視点・基本的な方針の検討など

イ 第1回ワークショップの開催について（WEB開催）

(7) 実施主体

県

(4) 日時

令和4年1月30日（日）13時00分～

(ウ) 場所

広島県庁本館 3階経営企画チーム執務室

(エ) 参加者

45名

(オ) 実施内容

被服支廠の歴史などについての情報共有を図るとともに、活用について、次のとおり様々な意見が出た。

区分	主な意見
活用に 重要な視点	<ul style="list-style-type: none">・活用していくための管理や運営の仕組みづくりが重要である。・広島大学医学部や現代美術館など、周辺施設との連携も重要である。・県民が交流できるという視点も重要である。・平和や文化を発信するという視点も重要である。・被服支廠を知らない人が多いため、イベントを実施するなど、人が集まるための周知が重要である。
具体的な 活用の アイデア	<p>(博物館等)</p> <ul style="list-style-type: none">・歴史資料館，図書館など <p>(飲食)</p> <ul style="list-style-type: none">・飲食店や酒蔵，クラフトビールなどの醸造所など <p>(物販)</p> <ul style="list-style-type: none">・横浜の赤レンガ倉庫などの複合商業施設など <p>(イベントスペース)</p> <ul style="list-style-type: none">・マルシェ，音楽，現代アートの展示などのイベントスペース <p>(文化・芸術)</p> <ul style="list-style-type: none">・アーティストが滞在しながら創作する施設など・広島のお酒と神楽の情報発信の場 <p>(宿泊施設)</p> <ul style="list-style-type: none">・ホテル，ユースホステル，合宿研修所など <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none">・子ども図書館，子どもの職業体験施設，研究施設など <p>(平和)</p> <ul style="list-style-type: none">・被爆，平和関連に特化したアーカイブスの作成・第2の平和記念資料館，原爆関係の文学館など・ユニタールなどの公的機関の移転 <p>(公園)</p> <ul style="list-style-type: none">・敷地内に子どもや親子連れが遊べる公園・市民参加型の緑化プロジェクトの実施

(カ) 次回開催予定

日程：令和4年3月13日（日）

内容：各種団体からのヒアリング，活用に向けて重要な視点の共有など

(2) 安全対策に係る実施設計及び文化財指定に向けた価値調査について

ア 第1回検討会議の開催について（WEB開催）

(7) 実施主体

県

(イ) 日時

令和4年2月7日（月）10時00分～

(ロ) 場所

広島市まちづくり市民交流プラザ 北棟5階 研修室C（広島市中区袋町6-36）

(イ) 実施内容

a 出席委員

委員全7名出席

b 議題

(a) 検討会議会長の選任

工学院大学 後藤治理事長を会長に選任した。

(b) 安全対策工事に伴う実施設計の進捗状況及び進め方について

次のとおり、安全対策工事に伴う実施設計について、取組状況を報告し、了解を得た。

○ 進捗状況

令和3年11月に、株式会社日建設計と契約を締結した後、実施設計の一環として行う、屋根等の劣化程度を把握する調査などのほか、全体スケジュールおよび作業方針について、整理を行った。

○ 補足調査の主な内容

・屋根の劣化度調査

1～3号棟の屋根瓦を一部撤去し、瓦・スラブ表面等の劣化状況を調査する。

・鉄骨ブレース設置予定箇所の調査

1号棟1階において、鉄骨ブレース設置予定箇所の配筋状況等を調査する。

○ 今後のスケジュール

令和4年1月～3月 補足調査の実施

1月～5月 詳細調査の検討

6月～10月 実施設計

10月～3月 積算・とりまとめ

(c) 文化財指定に向けた価値調査の進捗状況について

次のとおり、文化財指定に向けた価値調査の進捗状況について報告し、了解を得た。

○ 進捗状況

令和3年9月に株式会社文化財保存計画協会と契約を行い、旧広島陸軍被服支廠の沿革や建設後の改変、活用履歴等を明らかにするため、歴史的調査に着手し、広島市公文書館、広島県立文書館、広島大学公文書館、国立公文書館等において資料の探索を行った。

また、被服支廠（倉庫）の建設経緯等を明らかにするため、防衛省防衛研究所戦史研究センターへの調査にも着手した。

併せて、県民に対し、被服支廠に関わる資料の提供を呼びかけている。

(現時点で判明したこと)

・建設経緯に関すること

旧陸軍省と広島に置かれていた第五師団との間で交わされていた、建設に係る往復文書等の存在

(主な往復文書)

※ これらの文書において、「別紙」とされている資料については、その所在が明らかになっておらず、引き続き調査を行う。

文書発出日	作成者	件名／概要
明治43年 6月30日	陸軍省 経理局 建築課	<u>広島被服支廠増築倉庫敷地買収の件</u> ・増築倉庫敷地として皆実村現在倉庫敷地西方 接続民有地約1万5100坪の買収について至急 伺を出すべし。 ・買収区域については、被服本廠長と協議すべ し。
明治44年 6月28日	陸軍省 経理局 建築課	<u>広島陸軍被服支廠新築工事の件</u> ・別紙設計要領書及び図面により設計の上実施 すべし。 ・付属工事について、設計図書を添え、実施につ いて伺を出すべし。 ・予算は45万円以内を目途とし、戦後整理費倉 庫建築費から支弁する。
明治44年 10月23日	第五師団 経理部	<u>広島被服支廠倉庫新築工事の件</u> ・設計を完成し、経費積算を行った。
明治45年 5月13日	第五師団 経理部	<u>広島陸軍被服支廠倉庫新築工事設計変更の件</u> ・別紙設計変更理由書のとおり、将来における 修繕及び出入等の不便を考慮し、設計を一部 変更したいので、設計図面及び工事費増減仕 訳書を添えて伺う。

・ 建築構造に関すること

旧広島陸軍被服支廠は、カーン式鉄筋コンクリートやコンプレッソル杭を採用しており、国内においては希少な現存例であると考えられることから、引き続き調査を行う。

(カーン式鉄筋コンクリートを採用した主な現存建築物)

建造物名称	竣工年	所在地	備考
旧広島陸軍被服支廠倉庫	大正 2 年	広島県	
大谷派本願寺函館別院	大正 4 年	北海道	国指定重要文化財
軍艦島日給社宅	大正 7 年～	長崎県	
山口銀行旧本店 (旧三井銀行下関支店)	大正 9 年	山口県	山口県指定有形文化財
日本工業倶楽部会館	大正 9 年	東京都	国登録有形文化財
旧露亜銀行横浜支店	大正10年	神奈川県	横浜市指定有形文化財

(コンプレッソル杭を採用した主な現存建築物)

建造物名称	竣工年	所在地	備考
旧広島陸軍被服支廠倉庫	大正 2 年	広島県	
日本製鋼所室蘭工場	不詳	北海道	
近衛師団司令部庁舎	明治43年	東京都	国指定重要文化財
旧諸戸家住宅	大正 2 年	三重県	国指定重要文化財

・ 建造物の利用に関すること

戦後、教育機関の教室や学生寮等として使用されていた際の状況の一部が確認できた。

例) 昭和 2 2 年ごろの配置状況

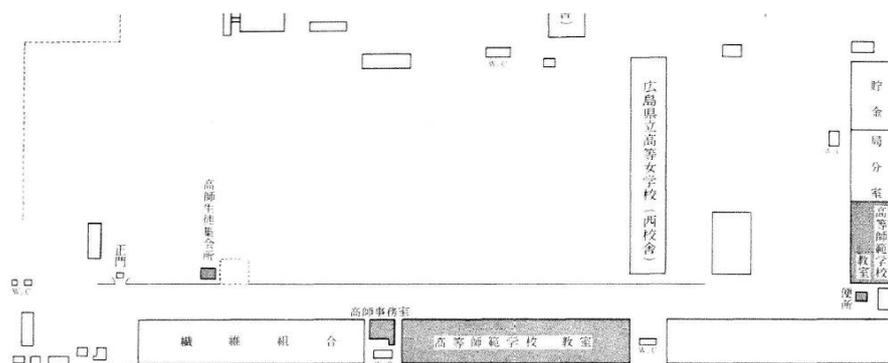


図 1-3 広島高等師範学校配置図

出典) 『広島大学二十五年史 包括校史』

○ 今後のスケジュール

- 令和 4 年 1 月～ 8 月 歴史的調査・建造物調査
- 7 月～12月 文化財的価値の把握及び整理
- 5 年 1 月～ 3 月 調査報告書とりまとめ

(d) 委員からの意見

事務局からの報告を行った後、委員による意見交換を行った。主な意見は次のとおりであった。

- ① 文化財としての価値を整理するにあたっては、近代の広島における旧日本陸軍の役割や建設当時の広島の建築技術（煉瓦製造技術など）の状況など、幅広い歴史の中でこの建物をとらえてほしい。
- ② 採用されている技術には、明治から大正にかけての日本の技術的状況が反映されており、海外を含め、他の事例や背景的な状況を整理することが必要である。
- ③ 活用の検討も並行して進む中で、建物の価値を共有した上で、文化財的価値と、県民・市民が望む活用が両立するよう、取り組む必要がある。

【参考】

第2回懇談会出席委員

(コア委員)

氏名	所属等	専門分野
あべりょう 安部良	安部良アトリエ一級建築士事務所 主宰 総務省地域力創造アドバイザー	建築
おかだまさあき 岡田昌彰	近畿大学 社会環境工学科 教授	景観工学 産業遺産
きどりのこ 佐渡紀子	広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授	国際政治 平和学
たなかなおと 田中尚人	熊本大学 熊本創生推進機構 准教授	公共空間 マネジメント
つみやまみさ 積山ミサ	NPO 法人 ひろしまインターネット美術館 理事 特定非営利活動法人 PRESENTsHIROSHIMA 理事長	文化・芸術
ひらおじゅんべい 平尾順平	特定非営利活動法人 ひろしまジン大学 代表理事	地域・まちづくり
まえのやよい 前野やよい	広島市郷土資料館 主任学芸員	郷土史
みついわたる 光井渉	東京藝術大学 美術学部 建築科 教授	日本建築史 文化財保存

(分野別委員)

氏名	所属等	専門分野
たかたまこと 高田真	アーキワーク広島 代表	まちづくり団体

第1回検討会議出席委員

氏名	所属等	専門分野
おおくぼたかあき 大久保孝昭	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授	建物構造・材料
くすのきこういち 楠浩一	東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門 教授	耐震工学 建築構造
ごとうおさむ 後藤治	工学院大学 理事長	歴史的建造物修復 建築史
ちだたけし 千田武志	広島国際大学 客員教授	日本軍事史 近代日本経済史
なかがわたけし 中川武	早稲田大学 理工学術院 名誉教授 博物館明治村館長	歴史的建造物修復 建築史
はせがわなおし 長谷川直司	国土交通省 国土技術政策総合研究所 シニアフェロー	建築構工法 煉瓦造構法
ふじためいじ 藤田盟児	奈良女子大学 生活環境学部住環境学科 教授	都市建築史